

ノーベル賞も夢ではない！

味の素株式会社
イノベーション研究所
研究職

● 原田(小原) 育恵



*プロフィール
日本大学藤沢高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・食品科学工学科(現、食品生命学科)卒業→味の素株式会社(現職) ↓結婚



仕事の内容とやりがい

私は、アミノ酸機能の基礎研究に携わっております。基礎研究は、花となる商品を世の中に出すために新しい種を見つける部門ですが、新しい種はそう簡単には見つかりません。そのため、細かい条件を何度も変えながら、泥臭く地道な作業を繰り返す毎日です。決してきらびやかな世界とは言えません。しかし、まだ誰も知らない出来事を一番に発見することができる分野で、私にとって一番魅力を感じています。イノベーション(新しい価値の創造)の風を起こすために、若手でも責任のある仕事を任せてもらえ、何でも挑戦できる環境があり、とてもやりがいを感じます。ノーベル賞も夢ではないと思うくらい可能性を秘めています。



進路決定のきっかけ

私は食べることが大好きで、食に興味を持っていました。また、私は幼い頃からアトピー性皮膚炎を患っており、たくさんの飲み薬や塗り薬を服用しています。毎日飲み薬を飲み続けることは非常に辛く大変なことです。大学の講義で、機能性食品の存在を知り、少しでも薬を減らして食を楽しみながら、健康な身体をつくることのできる食品にさらに魅力を感じるようになりました。さらに、食品は人を楽しく幸せな生活に寄与します。私は、食を通して、健康で豊かな生活に貢献し、世界中の人を笑顔にしたいと考え、食品会社を志望するようになりました。



仕事と生活/家庭のバランス

私は、仕事と生活にメリハリを持つことを心掛けています。私の会社には、大学のサークルのような班活動があり、その中でテニス・マラソン・華道・料理班に参加しています。そこでは、普段の業務では知り合えない先輩や後輩と知り合うことができ、合宿や大会を通して、非日常体験を味わうことができます。これらの活動を通して築いた人脈は、私にとって大切な宝となっています。仕事の時は、とことん目の前の業務に向き合い、遊ぶ時は、とことん楽しむことで、うまくバランスをとることができると思います。働く上で、このバランスを保つことはとても大切だと感じています。



進路選択に対するメッセージ

やりたいことがある中で就職活動に取り組むことは、もっとも良いと思います。しかし、やりたいことが明確で無い中、就職活動をする人は多く、見つけることも容易なことではないと思います。私も就職活動前には具体的なやりたいことは定まっていなかった。まずは、少しでも興味のある分野を中心にいろいろな会社の説明会に足を運び、話を聞くことで、さらに興味が深まったり、自分のやりたいことが見えてきたりするのだと思います。新卒での採用は一生に一度きりです。就職活動中は不安や焦りを感じることも多いと思いますが、こんなにいろいろな会社を知ることができるのはこの時期だけです。就職活動を楽しんで取り組むことで、自分に合う会社と出会えると思います。悔いのない就職活動をしてください。

好きならば仕事にはしないほうがいい、というのは考え方次第

● 原田(石川) 沙織
Lone Pine Koala Sanctuary
Wildlife Officer/Zoologist



仕事の内容とやりがい

簡単に言ってしまうと動物飼育員ですが、Koala や Kangaroo、Wombat といったオーストラリア特有の動物を飼育下でいかに自然の行動に近い形にできるかが、毎日の課題といってもいいかもしれません。もちろん、動物に関しての教育を重視している保護区でもあるので、動物のトレーニングを含め、園を訪れる方に、より動物について知ってもらうためのツアー等を行っています。ありきたりの言葉ではありますが、毎日が同じではないので、飽きることはまずありません。大学等で勉強してきたことを生かすのはもちろんですが、実際動物を相手に仕事をする、教科書には無いものを学び続けている感じです。



進路決定のきっかけ

大学進学時は動物関係の仕事に就きたいという単純な考えしかなかったのですが、大学4年時に就職活動をかねて、飼育研修をしたサファリパークから仕事をいただきました。怪我や事故も絶えず、苦勞が無かったわけではありませんが、そこでの仕事があったから、飼育環境について考えたり、日本とは全く違う環境で、海外で仕事をしてみたいというきっかけにもなったと思います。もともと両親が海外留学に賛成してくれていたため、自分の中で決めてからはすぐでした。もちろん海外で仕事となるとビザなど問題ばかりでしたが、負けず嫌いがよかったのか、「だめかもしれない」より「完全にだめと決まったわけじゃない」という考えを持ってたことが今につながっていると思います。



仕事と生活／家庭のバランス

日本で飼育員をしていた時はまず休みがありませんでした。連休をとれても3日ほどでした。少ないときは月に3日だけの休日です。体力勝負の仕事でもあるので、風邪をひかないように気をつけていました。オーストラリアに来てからもしばらくは、大学院に行きながら、週末は今のコアラ保護区で仕事をしていたので、休みはほぼありませんでした。フルタイムで働いている今になって考えると、よくやっていたなとも思います。今も、土日は私にとっての週末ではありませんが、家族と平日にできるだけ休みを会わせるようにしています。しかし、休みの日にも国立公園に野生動物を見に行くこともあるので、仕事と趣味の境目がかなり曖昧です。



進路選択に対するメッセージ

日本の今の就職活動状況をよく知っている訳ではないのですが、もし今やりたいことがあるのならやって欲しいです。それが将来につながる仕事か転職を考えてしまうのか、それはわかりませんが、やりたいことが今あるということはすごく幸せなことだと思います。もし経済的な事情等で別の就職先を選ぶことになってしまったとしても、本気でやりたいと思ったことならば、仕事の合間に勉強をしたり、何かしらの形で関わっていくことはできると思います。それが次の仕事になる可能性はおおいにあるのですから。タイミングが大事というのも一理ありますが、タイミングを自分でつくることもできることを忘れないでください。



*プロフィール

神奈川県立上鶴間高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・動物資源科学科卒業→東北サファリパーク那須支店→語学留学(オーストラリア)→KENWOODにて派遣業務→大学院留学(オーストラリア)→Lone Pine Koala Sanctuary 12/ Wildlife Officer/Zoologist (現職)→結婚

好きなことを楽しみながら一生懸命やってください

● 半澤 紗由里

公益財団法人 横浜市緑の協会
横浜市立金沢動物園 飼育展示係
インドゾウ担当



***プロフィール**
日本大学鶴ヶ丘高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・動物資源科学科卒業→(株)小泉アフリカ・ライオン・サファリ(通称:富士サファリパーク)入社 営業部企画販促課へ配属、広報の仕事に携わる→飼育部動物展示課へ移動、クマ・チーター・トラの担当となる→(公財)横浜市緑の協会入社 金沢動物園インドゾウ担当へ配属(現職)



仕事の内容とやりがい

オス・メス1頭ずつ、計2頭のインドゾウの飼育担当をしています。飼育の仕方でも性格も2頭でまったく違うので、それぞれに合わせたケアや対応を心掛けています。また、日本大学の学生と共同で、行動調査や餌の消化についての研究事業も進めています。まだまだわからないことの多い野生動物ですので、飼育個体のためだけではなく、野生ゾウのためにも、少しでも多くのことを解明できるように努めています。また、ゾウ、というシンボリックな動物を通し伝えられることは非常に多く、様々な角度からの教育的アプローチができる動物だと感じています。環境教育の第一歩としてゾウを好きになってもらうため、生き生きとした行動を引き起こす展示を心掛けていますが、小さな子供が目を輝かせてゾウを見ている姿を見ると、その成果を感じます。



進路決定のきっかけ

幼い頃より野生動物に興味があり、動物園で働くことを希望していました。しかし、大学に入学し、研究室で、肉用牛を供試動物としていたため、家畜への興味も湧き、牧場などの畜産業への就職も視野に入れていました。ところが、所属していた研究室の教授は、大学3年生の研究室入室以来、私が動物園への就職を希望していたことをご存知だったので、研究室の諸先輩方も多数活躍しておられたサファリパークへの就職を強く勧めてくださいました。教授に進めていただいたサファリパークで8年間さまざまな経験を積み、4年前に転職し、現在は金沢動物園で働いています。教授の勧めがなかったら、今頃別の道を進んでいたと思います。



仕事と生活/家庭のバランス

未婚であるため、特別工夫していることはありません。今は仕事楽しく、家庭を築くという気持ちはほとんどありません。現在の職場には、家庭を持ち、お子さんもいる女性も多数おりますが、時短などの制度をうまく活用し両立している人が多いようです。

かつては男性の多かった職場ですが、最近はほぼ半数の職員が女性になっています。それに伴い、徐々にハード面でもソフト面でも女性の働きやすい環境になっています。しかし、早く帰宅しなければならないことも多いため、本人が仕事の進め方に工夫をする必要もあります。



進路選択に対するメッセージ

動物飼育は、日本ではまだまだ男性中心の職種だというイメージが強いですが、私の担当しているゾウもご存じの通り大きい動物で、餌も糞も桁違いの量です。男性職員が1回で運べる場所を数回に分けて運ぶなどの工夫をしていますが、基本的な飼育技術に腕力はほとんど関係ありません。海外では、動物が女性の声の高さを好むということで、女性のほうが多い職種となっています。また、きめの細やかな飼育ができていると思います。どんな仕事でも、男性の良さや女性の良さには違いがあり、女性だからこそ、という場面や仕事内容が必ずあります。それを見つけ、自分の力を発揮してください。

Open your eyes : opportunity is in everything

堀内 悠

デュポン株式会社
農業製品事業部 研究・開発本部 登録・安全部 課長



仕事の内容とやりがい

現在は、アメリカに本拠を置き、世界 90 ヶ国で事業を展開するデュポン社の日本法人に勤務しています。デュポンは自動車、エレクトロニクス、通信、建築、農業、栄養食品、安全防護、アパレル関連分野など多岐にわたり素材や技術を提供しているサイエンスカンパニーです。私の主要な業務は農業製品の登録及び維持であり、中でも特に農薬の安全性についての確認を任されています(学問的には毒性学と呼ばれる分野です)。その過程で米国本社やアジア各国とコミュニケーションをとりながら、一方で国内の関係会社とも連携し、総合的かつ迅速に開発を進めることが求められます。このような仕事を通じて、さまざまな企業や国の方々と知り合い、文化の違いを学ぶ機会が得られることが非常に楽しく、仕事のやりがいに繋がっています。



進路決定のきっかけ

高校まで文系を専攻していましたが、大学入試直前で獣医学という分野に興味をもち理系に分類される獣医学科に進みました。受験勉強として化学を選択していなかったために大学進学後は化学の授業についていくのに苦労しましたが、最終的には獣医師免許という国家資格を取得することができ、その後の就職・転職に役立ちました。在学中は動物病院でアルバイトをしたり、海外旅行を楽しんだりと有意義な6年間を過ごしました。またその様な学生生活を送るうちに「世界を感じられる仕事に就きたい」と漠然と考えるようになりました。獣医学科の学生はその7割が臨床、2割が公務員、1割がその他(大学院、企業など)という進路に進むそうですが、私はグローバルな仕事に携わりたいという夢を持ち、迷わず企業への就職を選択しました。



仕事と生活／家庭のバランス

外資系企業における評価はプロセスではなく結果によると言われます。私も業務時間中には仕事に集中し、できるだけ多くの結果を出そうと心掛けています。その成果もあり、仕事に従事している時間は比較的短く、ワークライフバランスは充実していると思います。会社はフレックスタイム制(10:00~15:00のコアタイムを含む)を採用しているため、朝型の私は朝7時に出社し、夕方は早めに退社します。退社後はスポーツや料理、友人との食事などのプライベートの時間に充てています。年次有給休暇も毎年100%利用し、年に数回は主人との旅行を楽しんでいます。



進路選択に対するメッセージ

進路を選択するということは簡単なことではなく、また若い頃から自分が仕事として何をしたいかを明確にわかっている方は多くはないのではと思います。私も学生時代には「海外出張に行くことができる仕事をしたい」という程度の希望があっただけで、明確な進路目標があっただけではありません。しかしそのときどきのしたいこと、やるべきことに取り組むうちに少しずつ自分の希望を知り、その都度進路を選んできました。だから皆さんも何か興味があるものがあれば(勉強、アルバイト、旅行、ボランティア等何でもよいと思います)、どんどん取り組んでみてください。自分の特性を知るために、視野を広く持って全力でチャレンジしてみてください。その中に必ずチャンスが隠れていて、次のステップへ導いてくれるはずですよ。



*プロフィール

山口県立徳山高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・獣医学科卒業→アリストライフサイエンス株式会社(財)残留農薬研究所→協和発酵バイオ株式会社
↓デュポン株式会社(現職) ↓結婚

前向きに、楽しく

● 増田 なおみ

Meiji Seika ファルマ株式会社 医薬研究所



*プロフィール

東京都立富士高等学校卒業→日本大学農獣医学部・応用生物科学科(現 生物資源科学部)卒業→明治製菓株式会社入社→結婚→第一子出産→育児休暇を経て復職→第二子出産→復職→Meiji Seika ファルマ(株) 医薬研究所 薬理研究室にて勤務(現職)



仕事の内容とやりがい

医薬研究所で、薬のタネを探す創薬と、タネを薬に仕上げていく開発段階の両方で、薬理評価を担当しています。創薬では、まだ世の中で誰も見たことのない活性を示す化合物を探していく面白さがある一方、開発品の評価では、承認申請に必要な試験を計画、実施する業務の中で、臨床に近い候補品を評価する緊張感とやりがいを感じます。企業の研究所での仕事は、会社の方針に沿った研究を行うという点が大学とは異なると思いますが、会社という大きなチームの中で、自分がどのように貢献していけるかを考えながら、全員で大きな仕事を成し遂げていくことが出来るのは、面白さであり魅力だと思います。



進路決定のきっかけ

子供の頃は本が好きで、学校の教科もずっと国語が得意でした。高校二年の進路選択の時期まで、漠然と自分は文学部かどこかに進むのだろうと思っていましたが、何か違うな、と突然理系の道を選択しました。高校の管弦楽部でお世話になった先輩が農学部で、実験の様子などを聞かせて下さったことがきっかけだったように思います。農獣医学部応用生物科学科に進学後は、研究というものに興味を持つようになり、修士課程への進学も考えましたが、薬を作る仕事がしたいという夢を持ち、当時研究所で大卒の募集があった明治製菓(株)(現 Meiji Seika ファルマ(株))に就職しました。



仕事と生活／家庭のバランス

今では小学校6年生と4年生の子供達ですが、保育園に通わせている時期は、よく熱を出して休まなければならなかったり、呼び出しで早退することも多々ありました。主人に交代で休みを取ってもらったり、実家に頼ったり、また職場の皆さんのご協力も得ながら、なんとか仕事を続けることができています。女性に限らず子育て世代においては、仕事でも家庭でも、やりたいことを全て実行することは難しいですが、出来る範囲で、出来ることを精一杯やるよう心がけています。また、趣味で続けているトロンボーンで、社会人オーケストラや金管アンサンブルに所属しており、仕事と家庭以外の時間を持つことで、忙しい中でも生活を楽しむことができています。



進路選択に対するメッセージ

進路の選択にあたっては、現在の自分の適性や、得意なことを分析することも必要かもしれませんが、自分自身が興味を持ち、やってみようと思う道に進むことが大事だと思います。目の前のことを懸命にやっていたら、少し違う方向に進みたいと思った時にも、それまで積み重ねてきたことは活かせるものです。また、自分では考えてもみなかった適性がある場合もあるので、あまり苦手意識や先入観を持たずに、チャレンジしてみることも大切です。自分の人生を創っていくのは自分自身ですから、なりたい自分を目指して、一歩を踏み出して下さい。

百聞は一見にしかず いろいろなことに自分から歩みよってみよう!

● 村田 麻衣子

小岩井乳業株式会社

SCM部調達チーム



仕事の内容とやりがい

入社して最初に配属になったのがマーケティング部でした。そこで4年間商品企画の仕事に携わりました。商品の中身やパッケージデザインを考えたり、夜遅くまでの仕事も多く大変なこともありましたが、とても勉強になりました。この4年間で製造、営業、工場、いろいろな方と一緒に仕事をさせてもらって、そこで学んだことや人との繋がりが今の私の土台となっています。

出産後復帰してからは原料調達の仕事をしています。今度は開発部門と協力してコーヒーや果汁など商品の原料を選定していきます。商品をつくりあげる大事な原料ですので、原料メーカーの工場監査などにも行きます。どちらの仕事も最終的に小岩井の商品となってお店に並び、お客様に食べて頂けることが何より嬉しく、原動力となります。



進路決定のきっかけ

私の大学選びは何か具体的にこれを学びたい!と決まっているものではありませんでした。中学高校と6年間を女子校で過ごしたので大学くらいは共学に行こう!と、これしかありませんでした。たまたま手に取った予備校の冊子に生物資源科学部が載っていて「へ〜、食品経済だっ〜、面白そう」と思って受験し、入学しました。なんていい加減なのでしょう!!ただ、せっかく入った大学なので入学してからはいろいろなことを学びたいと思い意欲的に動いたと思います。食品経済学科では食の川上〜川下までトータルに学ぶことができ、その中で私は、商品を生み出すメーカーの仕事に魅力を感じたので、就職の際は食品メーカー1本に絞って活動しました。なので私は、大学に入ってから自分の道を模索したカタチです。



仕事と生活/家庭のバランス

入社3年目に結婚、4年目に長男出産、6年目に長女出産…私、最初の6年間で2回も育児休業を取得した大物ルーキー?でした。社内の制度が整っていたことに大変感謝しています。わが家は夫の帰宅が遅いので基本的に家の中のことは私に回ってきます。1人で全部はこなせないのも、【子供>仕事>家事】という優先順位をつけて生活しています。なので、いちばん優先度の低い家事については家の中が多少?散らかっていても「しょうがない!」と割り切ります。また、会社を一步でたら仕事のことは忘れて休日は家族でいろいろな所へ遊びに行きます。子供が小さかった頃は保育園からの呼出しなど大変なこともありましたが、下の子供が小学生になった今、ちょっとひと山越えたかなと感じています。出張もこなせるようになってきました。そして今となっては子供たちが家事の大事な戦力です。



進路選択に対するメッセージ

何かを決断する時は、すごく勇気が必要ですよね。特にそれが自分の人生に関わる大切なこととなればなおさらです。高校生や大学生の時点で将来のビジョンが明確な人の方が少ないはずで、多くの人がどの大学に進学しようか、就職はどうしようかと悩むのだと思います。そのような中で私は就職の際、できるだけ多くの会社に足を運びました。会社にはそれぞれの「色」があり、それが自分に合うのか自分の肌で感じとって決めたかったからです。クリックひとつでいろいろな情報を得られる時代ではありますが、「カラダで感じる」ことも大切だと思います。その方が選択するときの不安も和らぐと思います。自分の道です、他の誰でもない自分が決めなければいけません。自分の足で出向いて、自分の目で見て心で感じて前向きな選択をしてください。



*プロフィール

実践女子学園高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・食品経済学科(現、食品ビジネス入学科)卒業→小岩井乳業株式会社マーケティング部→結婚→第1子出産・育児休業→復職(現職)
業→復職(現職)
産・育児休業→復職(原料調達)→第2子出産・育児休業

自分の居場所を見つけること

● **本山 千絵子**
株式会社ランス計画研究所



仕事の内容とやりがい

私の働く会社は造園コンサルタント会社で、主に公園の計画、設計を行っている会社です。仕事のやりがいは、自分たちがつくり上げたものが形になって見える、ということだと思います。公園づくりに必要な計画をまとめ、それを反映した設計をして、それが最終的には実際の公園となって完成します。公園を利用する方々の意見、遊具の配置、管理の方法など様々な要素をまとめて形にしていくことが私の働く会社の仕事です。公園は社会の癒し、憩い、ゆとりとなる空間です。そのような空間づくりに携わることが社会への貢献に繋がり、それが我が社の社会で担う役割の一つだと考えています。



進路決定のきっかけ

大学進学を決めたきっかけは、高校生の時に訪れた日本庭園を見て庭づくりに興味を持ち、将来は造園の分野の仕事に就きたいと思い、造園系の学科に進もうと決めました。関東に造園系の学科がある大学は少なく、その中の一つが日本大学生物資源科学部でした。第一希望は植物資源科学科でしたが、実際に受かったのは同じ受験科目で受けられた生物環境工学科だけでした。しかし、そこで学んだことは建築や土木と、今になってみれば造園の仕事にも必要な知識でした。入学して出会った先生方のもと、研究室に自分の居場所や興味のある研究を見つけ、単純にもっと研究をしたいという思いで大学院へ進学しました。その後、卒業と同時に得られた修習技術者も活かせる、元々の希望であった造園に関する職業を選び、今の仕事に就きました。



仕事と生活／家庭のバランス

入社当時は仕事もわからず、スケジュール管理もできないまま日々働いていました。先方とのやりとりの難しさ、失敗など多々ありました。そんな時、久しぶりに会った上司に「最近どう？」と聞かれ「失敗ばかりしています」と答えると「そんなの当たり前だよ」と言っていただき、とても気持ちが楽になりました。就職するまでは自分に仕事ができるのかな、働くってどういうことなのか、と不安でしたが、誰もが最初は初めてで周りの人に教わり、助けられながら学んでいくものだと感じます。そうしていくうちに仕事にも慣れることができ、自分の時間のやりくりも可能になっていくと思います。また、自分の強み(これだけは私に任せて!)をつくることができると良いと思います。それが会社での自分の居場所となり、社会での居場所になっていくのだと思います。



進路選択に対するメッセージ

最初は不本意だったかもしれない状況でも、その場所での人との出会いや、経験、楽しみは必ずあるものだと思います。私は大学入学からこれまでの十数年間に、今の自分にとってたくさんの大切なものを得ました。どこで何を学ぶというよりもそこで出会った人たちや経験したことが大切で、そのことが今の仕事にも役立っていると思います。受験や就職活動でその時が大変でも、その経験を経て行きつく先は、どこであって自分にとって必ず必要なものです。社会での自分の居場所を見つけ、どう社会と関わっていくかということが大切だと思います。社会とどう関わるかは人それぞれ違うと思いますが、どのような形であっても自分なりの居場所がどこかに見つかるのではないかと思います。



*プロフィール
神奈川県立新城高等学校卒業↓日本大学生物資源科学部・生物環境工学科卒業↓日本大学大学院・生物資源科学研究所・生物環境科学専攻・博士前期課程修了↓株式会社ランス計画研究所入社(現職)

仕事・家事・育児 全てをこなすにはパートナーの理解が重要！

● 森本（妹尾）ありさ

MSD株式会社 循環器・疾患代謝グループ
東京営業部 多摩第一営業所 医薬情報担当者（MR）



仕事の内容とやりがい

MRとはMedical Representative（医薬情報担当者）のことで、医療機関を訪問することにより、自社製品の情報を医療関係者に提供し、医薬品の適正な使用と普及を図ることを主な業務としています。いわば製薬会社の顔のような存在です。

私の場合は、自社製品の中でも特に糖尿病治療薬や降圧薬を担当しており、それらの薬の情報を医療機関に提供しています。この分野は競合するメーカーも多く、毎日朝早くから夜遅くまでの仕事で精神的にも肉体的にも辛い時もありますが、「この薬に替えたら、血糖値が下がって患者さんがとても喜んでいたらよ」などの声を医師からかけてもらった時は、月並みですがやはりとても嬉しいです。そしてそのようなときには、自分が「医療」という人の命を扱う現場に関わっているという実感が湧きそれがやりがいとなっています。



進路決定のきっかけ

高校時代に友人を病気で亡くしたことから、医療について考えるようになりました。中でも、特に再生医療の分野に興味を持ったのですが、以前より物事を多角的に見たいと考えていたため、植物や生命を取り巻く環境についても学ぶことができ、様々な実験も行うことができる農芸化学科（現、生命化学科）を選びました。そして、大学での講義を通じて、やはり自分の一番興味がある分野は生体に直接関係することだということを再認識し、それを最優先に研究室や就職先選びを行いました。

研究室入室当初は大学院への進学も考えていましたが、就職活動をしていくうちに早く社会と関わりを持ちたいと考えるようになり、最終的に就職という道を選びました。



仕事と生活／家庭のバランス

大学時代からお付き合いをしていた2つ下の学科の後輩と、入社3年目に結婚しました。家庭はリフレッシュでき安らげる場でありたいと考えているので、家では仕事の話はしないということ、家事はお互いできることをするというのを結婚前から決めていました。

育児休業を終えて復帰する際にも、もう一度 保育園の送迎や家事の分担について話し合いました。復帰した今は、私の帰りが遅い時は夫が保育園に子供を迎えに行き、ご飯を作ってくれています。仕事をしながらの育児では、子供と一緒にいられる時間が限られてしまうので、とにかく子供優先で生活するよう心がけています。

仕事と家庭を両立させるためには、結婚前にパートナーとしっかり話し合い、またライフスタイルが変化するときにも何を優先すべきかきちんと話し合いをすることが重要です。



進路選択に対してのメッセージ

私の場合、大学選びは漠然としていました。具体的にやりたいことや就きたい職業が決まっていた訳でもありません。そのため、入学後に他学科の授業も受講して、自分が本当に興味のあるものは何かを探りました。将来何がしたいか決まっていなときは、様々な方面に目を向けてみると新たな発見があるかもしれません。

また、就職先を決める際は、会社の名前や規模ではなく、実際にその会社で働く先輩の生の声を聞くよう努めました。Web や会社説明会では知ることのできない会社の本当の姿を知ることが重要だと考えたからです。入社してから「こんな会社だったんだ…」と後悔しないためにも、長くその会社で働いていくためにも、これから就職先を選ぶ皆様にはこのことをお勧めします。



*プロフィール

私立捜真女学校高等学校学部卒業→日本大学生物資源科学部・農芸化学科（現、生命化学科）卒業→2005年万有製薬株式会社（2010年よりMSD株式会社）入社
ワクチン担当MR→2009年より現職→結婚→第1子出産→育児休業を経て復職（現職）

夢を抱くことが実現の第一歩！

● 門前(野田) 雅美
岐阜県立飛騨高山高等学校 理科教員



*プロフィール
岐阜県立斐太高等学校卒業→日本大学農獣医学部・農芸化学科(現、生物資源科学部・生命化学科)卒業→高校常勤講師→中学校常勤講師→岐阜県教員採用試験合格→多治見高校→斐太高校(通信制)・結婚→産休・育児休暇(第一子出産)→飛騨高山高校・産休・育児休暇(第二子出産)→復職(現職)



仕事の内容とやりがい

講師を2年間経験し、教員採用試験合格後は岐阜県にて高校教員として働いています。現在は全日制の農業高校へ勤務していますが、これまでは全日制普通科、通信制にも勤めさせていただきました。今私がいる教育相談室の扉を開けると、心臓や目の模型とともにディズニーのかわいいキャラクターが目飛び込んできます。教育相談係としての私と理科教員としての私。私にはどちらも自然なのですが、生徒達や他の先生方にはその奇妙な組み合わせが驚きのようです。私が理科だけではなく教育相談へ足を踏み入れたのは、これまで勤めた通信制での幅広い年齢層の生徒達や、心の病を抱えた多くの生徒との出会いから今の生徒達には心の教育が必要だと感じたのです。私のこれからもずっと生徒の心に寄り添える教員でいたいと思います。



進路決定のきっかけ

両親が高校教員という家庭に育ったためか、物心がついた頃から将来は先生になろうと考えていた気がします。よく父母の教え子達が遊んでくれたり、学校へ連れて行ってもらったりと学校が身近に感じていたのも事実です。しかし、私自身は小学校低学年の頃は大人しく、学校へ行きたくないと思う日々もありました。そんなとき、小学校1、2年の頃の担任の先生が親身になって支えてくださり、そのお陰で学校へ行くことが出来るようになったのです。その先生とは今も私の子ども達共々交流させていただいていますが、今でも心の支えになってくださっています。この先もずっと私の理想であり、目標とする先生です。



仕事と生活／家庭のバランス

私は、部活動を通じて高校教員の夫と出会い結婚し、現在は夫と8歳の娘と5歳の息子、夫の両親の6人家族です。夫も私も朝早く、夕方も早くは帰れないため、同居している夫の両親が息子や娘の保育園への送迎や休みの日の世話などを手伝ってくれています。私はそのお陰で学校では教員として集中して勤めさせていただいています。子ども達は祖父母からの愛情をたっぷり受けて、思いやりの心も育っているのだと感謝し、この感謝の心は忘れないようにしたいと心がけて生活しています。また、私は、学校の動物舎へ連れて行き、ブタやウシ、ウマ、羊などの動物たちと触れあわせたり、夏休みは学校の演習林でカブトムシを採ったりと、かつて自分の母が私にしてくれたように、自分の子ども達も学校へ連れだすようにし、子ども達が自然に私の仕事を理解してくれることを願っています。



進路選択に対するメッセージ

今の高校生と触れあっている私としては、夢を抱くのが遅い生徒が多いように思います。自分のこれまで生きてきた中でたくさんの経験と人との出会いがあったと思います。きっとその中に自分の思い描く夢が隠れているのだと思うのです。ただ自分と向き合うことが出来なくて夢に気が付いていないだけ。私は両親や小学校時代の担任の先生のお陰で学校へ行くことが出来るようになり、自分が将来生きる道も学校でありたいと思うことが出来ました。夢に気が付くことが出来れば、その夢の実現のためには努力できるものです。心の底からやり甲斐を感じて仕事が出来るのはとても幸せです。皆さんもじっくり自分の心と向き合って夢を見つけてください。

進んだ先で、やりがいは見つけられる

● 吉村(前田) 明子

農林水産省動物検疫所
企画管理部 危機管理課 専門行政職



仕事の内容とやりがい

動物検疫所は、海外から輸入される動物や畜産物等の検査を実施し、海外で発生している家畜の伝染性疾病の国内への侵入を阻止するとともに、海外に家畜の伝染病を広げるおそれのない動物、畜産物等を輸出することによって、我が国の畜産の復興を図っています。

入省当時、私は、畜産物の検査業務を行いました。その後、動物の検査業務を経て、現在は、企画管理業務を行っています。現在所属している危機管理課は、水際防疫の一層の強化と国内防疫支援体制を整備するため、平成22年10月に新たに設置された課で、初代課員として配属されました。

宮崎県で発生した口蹄疫のように、家畜の伝染性疾病が発生すると、国内の畜産業に与える影響は重大です。日本の畜産業を守るため、海外から家畜の病気を侵入させないという使命感を持って仕事ができることに、大変やりがいを感じています。



進路決定のきっかけ

大学では、乳牛の繁殖成績と飼料給与の関係について研究を行い、実際に酪農家へ行き、調査を行いました。日本の酪農家が多くの問題を抱えていることを知りました。そして、大学院でも引き続き、乳牛に関する研究を行いました。大学で学んだ専門知識を活かし、深めていける仕事や日本の畜産業の発展に貢献できる仕事に就きたいという思いを持ちました。

畜産に関わる仕事ということで、企業も受けました。国家公務員で、畜産技術職という試験分野があることを知り、技術や情報分野等の面において畜産農家を支援できると考え、畜産技術職を希望し受験しました。また、都道府県の採用試験も受けました。その結果、現在の仕事に就いています。



仕事と生活／家庭のバランス

子供がまだ幼いため、朝は特に準備で大騒動です。保育園では別れ際に大泣きされ、後ろ髪惹かれる思いで子供を預けたこともあります。気持ちに余裕が無くなり、イライラしてしまい、子供との関わりに悩んだ時期もありました。子供が熱を出して早退、看病のために休み、子供中心の生活にならざるを得ないのも事実です。

仕事と家庭とのバランスを保つには、職場の理解、配偶者の手伝いがないと非常に難しいです。私は頼れる親戚が近くにいないため、夫婦で助け合うしかありません。保育園のお迎えや予防接種を主人にお願いするなど、育児を分担しています。

仕事をするときには仕事、家庭では子育てと、メリハリをつけるようにし、休日は一緒に遊び、スキンシップを図るようにしています。



進路選択に対するメッセージ

大学に進学する時に、明確な将来図を描いていたわけではありませんでした。動物が好きで、動物に関わる勉強がしたい、仕事に就きたいと思い、動物資源科学科に進学しました。

しかし、畜産に関わる仕事に携わるようになるとは思いませんでした。私は大学で勉学を進める中で動物栄養という分野に出会い、乳牛に関する研究をし、将来の仕事について考えました。

私は、大学も仕事も勉学や職務に励んでいる中でやりがいを見つけました。大学での先輩、友人との出会い、恩師、職場の同僚との出会いがあり、現在の自分があるにつくづく感じています。多くの人と関わりも大事だと思います。自分の根底にある思いは忘れず、自分にとってのやりがいを見つけてください。



*プロフィール

私立高知高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・動物資源科学科卒業→日本大学大学院・生物資源科学研究科・生物資源生産科学専攻・博士前期課程修了→農林水産省動物検疫所入省 検疫部畜産物検疫課に配属
↓結婚→第一子、第二子出産→育児休暇を経て復職→企画管理部に配属(現職)

努力が苦にならないことが才能である

● 渡邊 ちひろ

大成建設株式会社 エンジニアリング本部
ライフサイエンス統括グループ 医薬品施設グループ②



*プロフィール

さいたま市立浦和高等学校卒業(2008年) ↓ 日本大学生物資源科学部・生物環境工学科卒業(2012年)
↓ 大成建設株式会社 エンジニアリング本部 ライフサイエンス統括グループ 医薬品施設グループ②にてバリデーションを担当(現職)



仕事の内容とやりがい

「ゼネコン」と聞いて、皆さんはどのような仕事を思い浮かべますか？私は、街のランドマークにあるような、大きな建物を造っているというイメージがあります。それは間違いではありませんが、私の所属するグループが造っているものは違います。医薬品施設など皆さんの体の中に入る、薬などをつくるための工場を手掛けています。医薬品施設の建設は、医薬品製造エリアの適切な清浄度、医薬品を製造する人の害にならない安全な労働環境の確保が重要となります。私が担当しているバリデーションとは、建設中の医薬品施設が、世界的に決められた基準を満たしているか、この工場で医薬品を製造しても問題ないのかを検証し、文書化する仕事です。一見地味な仕事のようにですが、バリデーションがしっかり為されていないと、医薬品製造ができないこともあるのです。



進路決定のきっかけ

小中高と先生方に大変恵まれ、理科(特に化学)が好きでした。しかし、数学が苦手だったため、高校では文系に進みました。高校時代の私は、化学者や技術者というものは、とても勉強ができ、よい大学に進んだ特別な人になるものだ勝手に思っていました。そんな私が技術者を目指し理系大学への進学を決めたのは、高校3年生の頃の先輩の一言がきっかけでした。「俺は、化学者になる。」某大学の応用化学科に進んだ先輩に、「将来はどのような就職先を考えているのですか」と質問した時の答えでした。その時私が受けた衝撃は大きく「化学者や技術者を就職先として目指しているんだ!」と思ったことが、理系大学に進学を決めた大きな理由です。そして大学の先生方の支えもあり、文系高校出身ですが、技術職として就職することができました。



仕事と生活/家庭のバランス

全国各地へのお出張があることが大変なことであり、面白いところでもあると思っています。入社2ヶ月目に現場研修として1ヶ月ほど千葉県へ行きました。その後も大阪府へ2ヶ月の出張、現在は地元埼玉県の現場と新宿本社を行ったり来たりしています。出張先では、普段交流の少ない支店の方々や、業者の方々に会うことが出来ますし、その土地のおいしいものを食べたり、観光地に足を運んだり楽しいことがたくさんあります。もちろん大変なことも多くあります。体力的に辛いと感じることもあり、体調管理だけは気を付けています。まだまだ新米ですので、残業することもあります。自分自身のキャパシティを見極め、事前に下準備などをすることで、仕事を効率よく進め、プライベートな時間をとれるように努力しています。



進路選択に対するメッセージ

数学が苦手だからと言って高校時代は文系に進んだ私にとって、理系大学に進学することはもちろん不安でした。しかし、せっかくやりたいと思ったことを、苦手だからという理由で諦めたくありませんでした。“やりたいと思ったらまずはやってみる”そして“できないことをやらない言い訳にしない”という思いから、理系大学を受験するために勉強し、技術職に就けるように努力しました。将来にかかわる選択をする時、誰もが迷い、不安になると思います。そんな時は、些細なきっかけを前向きにとらえて、やってみようと思った自分の気持ちを信じてやってみましょう。そして、精一杯努力してください。「努力が苦にならないことが才能」です。進学にしろ、就職にしろ、悩みに悩んで自分なりの答えを出したとき、成長した自分に出会えるはずです。

前へ進もう。頑張る自分がきっと好きになる

渡邊 真弓

株式会社JT B 首都圏 (育児休暇中の為本社所属)



仕事の内容とやりがい

店頭にてお客様のご旅行のご相談からお手配、ご出発までのフォローなど旅行業務全般に携わる仕事をしています。取り扱う商品はパッケージはもちろん、切符一枚から海外ウエディングやクルーズ、留学まで様々です。この仕事はどのような旅行であっても、お客様のご希望に沿えるよう自分の知識や情報を駆使しながら旅行をプロデュースし、その結果お客様からお褒めの言葉を頂いたり、お土産話を聞かせて頂いたり、また自分の顧客に繋がったりした時にはとてもやりがいを感じます。

私自身、この仕事に就いて初めて頂いたお客様からのお褒めの言葉とお土産は未だに忘れることは出来ません。また、自分が旅行に行つて実際に見てきた事をそのまま生の声としてお客様へ自信をもってご案内できる…そんなところもこの仕事のいいところだと思います。



進路決定のきっかけ

まず就職活動をするにあたり、就職して働いている自分を想像してみました。考えた末に出てきた答えは「接客業」でした。今にして思えば4年間の書店でのアルバイトで、ただ流れ作業のように接客するのではなく、お客様を一人でも多く覚えたりちょっとした会話をしたり、そんな事が楽しかった経験から自然と接客業をしたいと思うようになったのだと思います。また高校、大学とチアリーディング部に所属していたので笑顔が必須なチアリーディングと接客業、そんなところにも繋がりがあったのかもしれない。結果、旅行業に関わらずお客様との直接窓口である「カウンター業務」に絞って就職活動をしました。



仕事と生活/家庭のバランス

私の場合はまず第一子妊娠が分かった際、仕事を辞めるべきか続けるべきか物凄く悩みました。悩んだ結果、出した結論は「辞めるのは簡単。だからやれるところまで続けてみよう」でした。出産、育児休暇を経て復帰するにあたり、沢山の不安や子供ともっと一緒にいてあげたいと思いましたが、復帰後は子供と24時間一緒にいてあげられない分、仕事をしている時は仕事に集中する、子供と一緒にいる時は子供に集中してあげて、ご飯はちゃんと温かいものを作って家族で食卓を囲もうなど、仕事と家庭とのメリハリがついた気がします。ただ、まだ子供が小さいので勤務時間を短縮させたり周囲の協力を得たりして子供になるべく負担をかけない様に配慮しています。今は二人の子供がもう少し大きくなったら一緒に色々なところへ旅行をしたいというのが夢です。



進路選択に対してのメッセージ

何でもいいです。学生時代に自分が夢中になれる事、輝いていられる事を見つけてください。きっとその経験が今後の人生においての糧になったり自信に繋がったりすると思います。私はそれが学生時代のチアリーディング部での活動でした。とにかく踊る事が好きだった事、そして大学では今まで自分はそういうタイプではないと思って避けてきた「部長」を任せられ、悩みながらも好きなチアリーディングだから頑張れた事、その経験が自分を大きくしてくれたと思います。そして諦めないで前に進んでみる事。私もこの仕事に就いて14年たちますが、自分の仕事ぶりに納得いかない事もしばしばです。でもだからこそもっと知識を増やして、一人でも多くのお客様に喜んでもらえる旅行を提供したいと思えるのだと思います。悩んで立ち止まる事もあると思いますが、前を向いて壁を乗り越えた先にはきっと一回り大きくなっている自分があるはずですから…。



*プロフィール

日本大学藤沢高等学校卒業→日本大学農獣医学部・拓植学科(現、生物資源科学部・国際地域開発学科)卒業
↓(株)JT Bトラベラランド(現、(株)JT B首都圏)茅ヶ崎エムロード店勤務→武蔵小杉イトーヨーカドー店へ異動→結婚→第一子出産→育児休暇を経て復職→第二子出産→現在育児休暇中